

(3) 授業に取り入れたい改善策

① 単元に2つの学習問題を設定する。

佐賀県教育センターが平成25・26年度の「プロジェクト研究」で取り組んだ小・中学校社会科教育研究委員会の研究によると、もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力や、習得した知識を活用して社会的事象の特色や相互の関連、意味について分かったことや考えたことを説明したり論述したりする力を高める効果が見られた研究内容として、「意思決定を取り入れた討論型の学習」(図1)<sup>①</sup>を提案しています。

具体的には、単元内に2つの学習問題の追究活動を位置付け、学習問題Ⅰとして、知識や概念を追究させるための問題を、学習問題Ⅱとして、習得した知識や技能を活用させ、社会的事象について自分の考えを深めさせ、表現させるための問題を設定した単元構成です。

本研究委員会では、この考え方を援用し、授業づくりに生かすことを提案します。

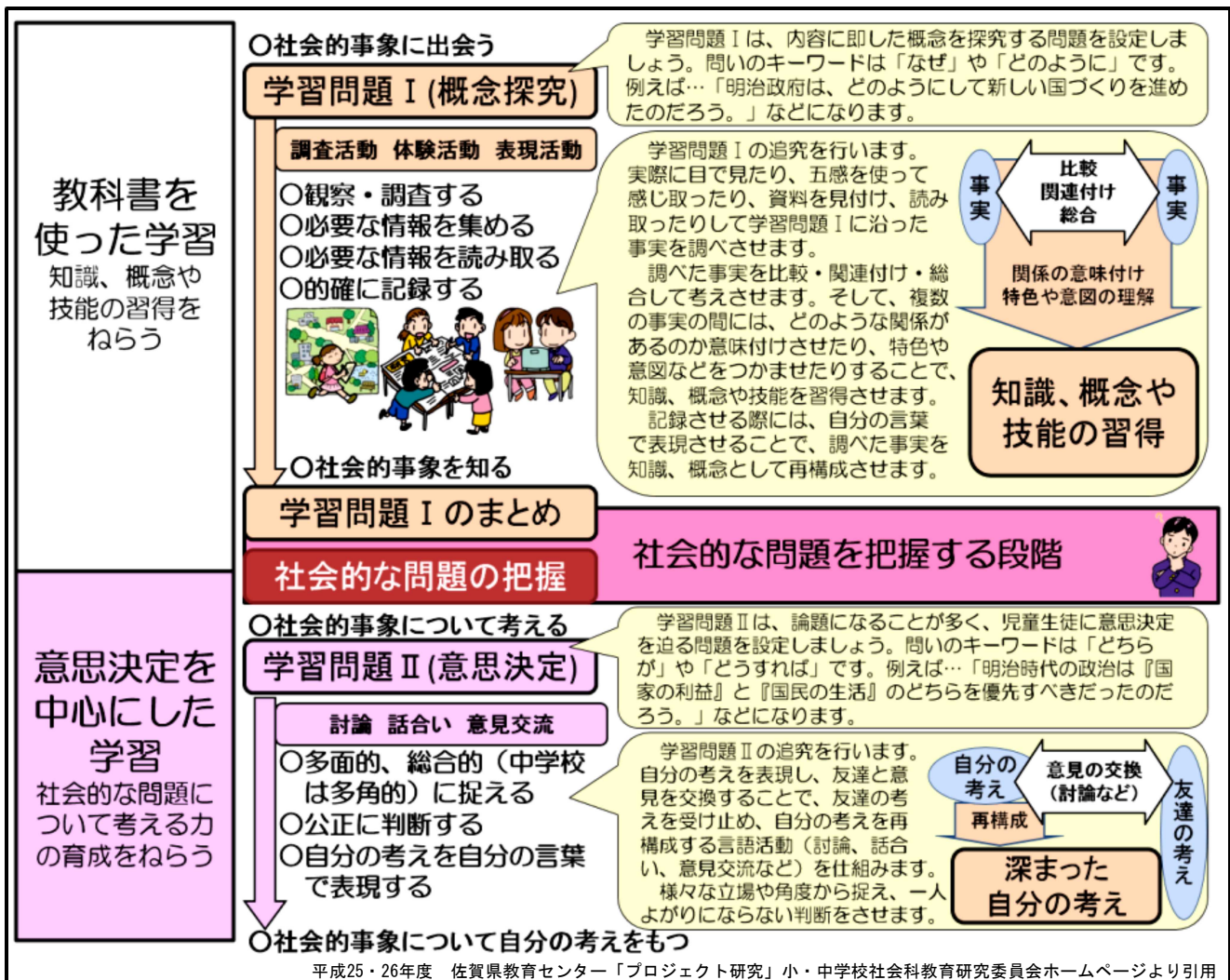


図1 「意思決定を取り入れた討論型の学習」の単元の構成図

※平成25・26年度の「プロジェクト研究」の詳細は次のWebアドレスより御覧いただけます。

[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h26/01\\_syakai/toppage.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm)

(↑平成25・26年度の「プロジェクト研究」小・中学校社会科教育研究委員会のサイトへ)

## ② 教師の問いかけ、問い返しで考えさせる。

複数の情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の目的や特徴、働き、役割、因果関係、条件など社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えさせる活動を仕組む際、教師の発問や児童とのやり取り、児童間のやり取りが重要になると考えます。

児童が考えるようにするためには、以下のような問いかけをし、児童の反応に応じて問い返しをしながら考えさせるようにします。

### 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えさせる教師の問いかけ、問い返し（発問）

#### ○「なぜ（どうして）」

「なぜ」は、目的や意図、働き、理由など意味を直接問いかけていることになり、児童は知識を活用して考えて応える必要があります。児童が知識を有しており、考え方が明確になってから使いたい発問です。

##### 【発問例】

「〇〇なのは、なぜだと思いますか（考えますか）。」

「△△なのに、なぜ□□なのでしょう。」

「どうして、そう思ったのですか（考えたのですか）。」

#### ○「どうなって（どのように）」

「どうなって（どのように）」は、具体的な事実（調べて分かること）を基にした返答を求めて問いかけていることになり、児童の知識を引き出させたり、関連付けて説明させたりするときに使いたい発問です。

##### 【発問例】

「〇〇は、どうなっていると思いますか（考えますか）。」

「△△は、どのようにして□□しているのでしょうか。」

これらの発問は、単元を貫く学習問題をつくる際に、児童の疑問を取り上げ、学級全体に問いかけたり、これからどんな学習をしたいかを問い返したりすることで、以下のような児童への効果が期待できます。

#### 教師の問いかけ、問い返しによる期待される児童への効果

- ・児童が社会的事象の意味を意識するようになる。
- ・児童から既存の知識を使って思考した予想を引き出すことができる。
- ・児童が調べたいという問題意識を高めることができる。
- ・児童が問題意識をもった学習計画を立てることができる。

さらに、これらの発問は、知識を活用させたり、知識を直接問うたりする発問になるため、社会的事象についての基礎的な知識を身に付けさせることにも効果があると考えます。

※必ずしも「どうなって（どのようにして）いるのだろう」→「なぜだろう」の順で問いかけるわけではありません。児童の反応を見ながら、組み合わせて問いかけ、問い返しを行います。

### ③ 視覚化して考えさせる。

児童に求める思考方法は、前項で述べたとおり、主に比較、関連付け、総合の3つです。これらの思考へと誘うために、板書やワークシート等で調べたことや分かったことを視覚化する手立てを取り入れます。具体的には、思考方法に応じて以下のような活動を仕組みます。

#### ・比較させる活動

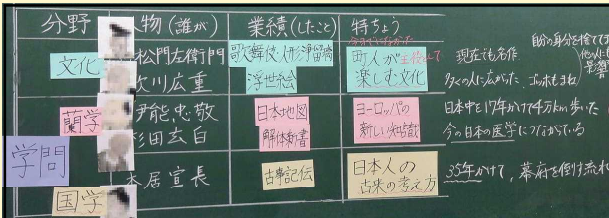
複数の情報を比較させる思考活動は、児童が比べることによって考える活動です。表や図を使って、左右に見て比べやすいようにする手立てを講じます。



資料1 資料を比較させる板書 (【実践事例5】)

#### 比較させる教師の問いかけ

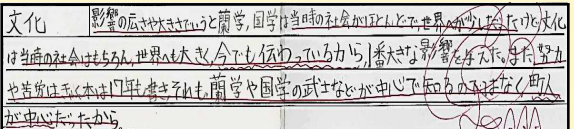
- ・「違っているところはどこですか」
- ・「似ているところはどこですか」
- ・「どちらが昔でしょうか」
- ・「間は何年ぐらいあると思いますか」
- ・「3枚を見比べて気付くことがありますか」



資料2 調べたことを比較させる板書 (【実践事例4】)

#### 比較させる教師の問いかけ

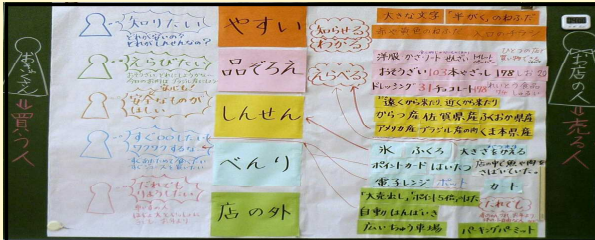
- ・「誰が一番すごいと思いますか」
- ・「どの分野一番すごいと思いますか」



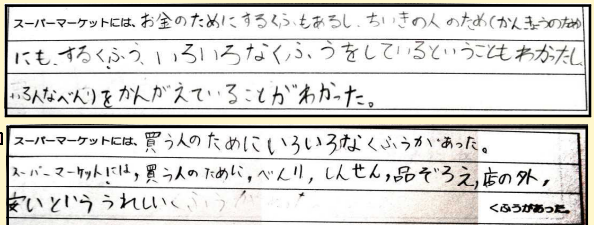
資料3 児童のワークシートの記述

#### ・関連付けさせる活動

複数の情報を関連付けさせる思考活動は、児童が情報をつなげることによって考える活動です。資料と資料を線で結ばせたり、矢印を書き込ませたりしてつながりが見えるように意識させるようにする手立てを講じます。



資料4 調べたことを関連付けさせる板書 (【実践事例2】)



資料5 児童のワークシートの記述



資料6 段階的に情報を関連付けさせる板書 (【実践事例3】)

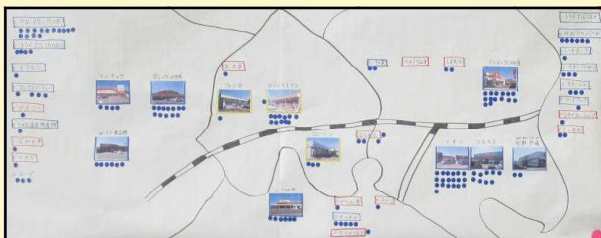
#### 段階的に情報を関連付けさせる教師の問いかけ、問い返し

- ①「日本で食べられている食料を100とすると、国産の食料はどれくらいあるのだろうか。」(児童の予想)
- ②「日本の食料自給率が39%。この現状が良いことだろうか。困ることだろうか。」(既習事項や生活経験との関連付け)
- ③「誰にとって良いこと(困ること)だろうか。」(立場による比較)



・総合して考えさせる活動

複数の情報を総合して考えさせる思考活動は、児童がまとめて考える活動です。模造紙や画用紙、ホワイトボードなどにまとめて書かせたり、板書に表や図を使って整理させたりして社会的事象を俯瞰して見るができるようにする手立てを講じます。



資料7 調べたことを総合させる板書  
（【実践事例1】）

目的をもって総合（まとめ）させる教師の問いかけ  
・「この学級では、どのお店の種類が一番多いのだろうか。」（児童の予想）



資料8 児童の体験的な活動

※視覚化は、あくまで思考させるための手掛かりにするものです。前述の「① 単元に2つの学習問題を設定する。」や「② 教師の問いかけ、問い返しで考えさせる。」、次の「④ ノートやワークシートに考えたことを書かせる。」と組み合わせることで効果が高まります。

④ ノートやワークシートに考えたことを書かせる。

社会科の学習は単元を通して1サイクルになります。学習問題の追究活動が、前時から引き継がれ、次時につながっていく必要があると考えます。そこで、毎時の振り返りを大切にしたいと考えます。

手立てとしては、図2のように、毎時の振り返りを、単元を通して1枚のワークシートに記述させ、学習問題の解決を意識させるようにすることや授業の最初に前時の振り返りを確認させた上で本時のめあてを確認することが考えられます。

このようにして、児童の思考が1単位時間を超えて単元でつながるようにする必要があります。

また、毎時のノートやワークシートには、調べて分かったこと（事実）だけではなく、考えたことを分けて書かせるようにしましょう。

考えたことには、「学習問題に対する予想」や「調べて分かったことから考えられること」、「もっと調べてみたいこととその理由」などが考えられます。

「今日の感想を書きましょう」や「今日の振り返りを書きましょう」という指示ではなく、「今日の学習では、〇〇と△△がキーワードになりそうですね。今日の振り返りのポイントは、2つです。1つ目は、この2つの言葉を使って分かったことをまとめて書きましょう。2つ目は、学習問題がどこまで解決したのか考えて書きましょう」など具体的な指示が効果的です。

学習問題	自動車がづくりでは、どのような工夫が努力をしているのだろうか？	
学習問題に対する自分の予想	性能がよくて安心してのれる車をつくる工夫。	
① 7月26日(金)	資料をもとに、学習問題をつくり、計画をたてる。	先生より
② 10月31日(月)	リス、ようせつとそう、組み立て、検査、出荷とういことは、トヨタで学習していたけど、また、こういうことがしたのでもかたです。	2月10日 2月11日 近の10月2日
③ 11月1日(火)	シャスト・イン・タイムということばをはじめてきました。アンドンや、ひもスイッチもまだいんだな～と思いました。	2月10日 2月11日 2月12日
④ 11月7日(月)	シャスト・イン・タイムがどんなに必要かおぼしめしたし、生産まで、どんなことがかかっているのかがしつたのでもかたです。	2月10日 2月11日 2月12日
⑤ 11月9日(水)	キャリーカーは5～6台しか車をはこべないけど、船は5～6000台1回にはこべるのですごいと思ひました。	2月10日 2月11日 2月12日

図2 児童が毎時の振り返りを記述した1枚のワークシート

## 引用文献

- (1) 佐賀県教育センター 『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』 平成26年3月  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h26/01\\_syakai/h26\\_proken\\_syakai\\_jissai2-6.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/h26_proken_syakai_jissai2-6.htm)

## 参考資料

- ・澤井陽介 『澤井陽介の社会科の授業デザイン』 2015年 東洋館出版社
- ・澤井陽介 『社会科授業づくりトレーニングBOOK』 2015年 明治図書
- ・澤井陽介 『児童の思考をアクティブにする社会科の授業展開』 2016年 東洋館出版社